

加古川平成ロータリークラブ

会 長 鈴木 勝博
 幹 事 山本 裕一
 広報小委員長 高田 誠
 2680地区ガバナー 矢坂 美徳



例会日/毎水曜日 12:30~13:30・例会場/加古川商工会議所会館 4F
 事務局/加古川市加古川町溝之口 800 加古川商工会議所会館 5F
 Tel. 079-422-8000 FAX. 079-422-8100
 ホームページ <http://www.k-heisei-rc.com/> / Eメール heiseirc@basil.ocn.ne.jp

2024~2025 年度 RI 会長 ステファニー A.アーチャ

No.1575 September 13、2024

例会プログラム

第8回(9月 13日)

卓話

「8/21 卓話 会員増強についての
 ディスカッション」

地区会員維持増強委員会副委員長
 林 知宏氏

例会当番 林

次週例会プログラム

(10月 4日)

卓話

「未 定」

米山奨学生
 グェン, フウ ダイ 氏

次週例会当番 原田

前週例会報告

◇ ゲスト

◇ ビジター

◇ 出席率 前週 会員数 15名 出席数 6名 出席免除 2名 欠席数 7名

◇ 前々週 会員数 15名 出席数 9名 出席免除 2名 欠席数 4名

◇ 欠席者 7名 井上 金川 柴田 鈴木 高田 林 松野

◇ メークアップ



★ ソング担当

★ 卓話 宮宅会員「皇位継承問題について」

本日の幹事報告

- ※ 例会欠席の時は必ず事前に事務局へ連絡！
- ※ 本日の食事；100万ドル

- ① 各RC例会変更のお知らせ
高砂RC 10月11日(金)→休会【定款第7条第1節(d)による】
10月18日(金)→休会【定款第7条第1節(d)による】
10月25日(金)→10月20日(日) 家族移動例会 於；大阪松竹座
加古川RC 10月 8日(火)→10月10日(木)午後6時～3クラブ合同例会
於；加古川プラザホテル2階
10月22日(火)→例会取りやめ[定款第7条第1節(d)]
10月29日(火)→職場例会 於；フジヤ號
加古川中央RC 10月10日(木)→3クラブ合同例会 午後6時～ 於；加古川プラザホテル2階
10月24日(木)→10月26日-27日(土日)親睦旅行 於；島根方面
10月31日(木)→休会【定款第7条第1節(d)】
- ② 回覧します
 - ・加古川ロータリークラブより創立70周年記念誌
 - ・地区補助金プロジェクト見学訪問のご案内(神戸東)参加ご希望の方は、事務局までお知らせください。
 - ・第44回RYLAセミナー報告書(2024.4.11(木)～14日(日))
 - ・第16回日韓親善会議2024登録推進のお願い(再度の参加奨励をお願いします)
- ③ Boxにはぐるま会報NO.126を入れています。
- ④ 次週20日(金)、次々週27日(金)の例会は例会取消〔定款第7条第1節(d)〕となっております。次回は10月4日(金)となります。米山奨学生が来られて卓話をしていただきます。皆さんでお出迎えよろしくお願いたします。

9月度理事・役員会報告

I 協議事項

- 1) 10月プログラムの件 榎 誠例会担当小委員長
10月 4日(金)：卓話「」米山奨学生(ゲン・フウ ダイ氏)による卓話
10月11日(金)：10月10日(木)に変更 「3クラブ合同例会」ホスト；加古川中央RC
10月18日(金)：例会取消〔定款第7条第1節(d)〕
10月25日(金)：10月23日(水)に変更 公式訪問前のクラブ協議会 中野哲郎G補佐
⇒承認
- 2) 金川会員退会の件
⇒承認持ち越し(もう一度声をかけていただく)
- 3) その他
 - ・畑山会員・藤田会員送別会の件
⇒承認(鳥井親睦委員長から、声をかけていただく)

II 報告事項

- ① 9月度ロータリーレート 1\$ = 145円(現行154円)
- ② 8月度累計欠席連絡状況 電話：0 メール：12 fax：0 出欠表：1 なし：0

SONG TODAY

加古川平成ロータリークラブ歌

作詞；平松弘光 作曲；平松愛理

※前のボードでお願いします



安全な水をめざしてグローバルパートナーシップの夢を実現

ロータリーと国連環境計画（UNEP）は今年、UNEPの技術的な専門知識を借りてロータリー会員が地元の淡水資源の保護・回復・維持に取り組むことを可能にする合同イニシアチブの発足を発表しました。

UNEPのプログラムオフィサーで、元ロータリー国際親善奨学生であるリズ・バーンハートさんにとって、その喜びはひとしおでした。それまでの5年間、両組織のリーダーたちと協力して「淡水保全のためのコミュニティアクション」と呼ばれるこのイニシアチブを実現へと導いてきた彼女は、自身のLinkedInページにこう投稿しました。「仕事の夢が叶いました」（バーンハートさんが自身の体験を綴った英語のブログ記事はこちら）

「ロータリーは、国連での私の仕事の大きな部分です。ロータリーに恩返しできたこと、また、このグローバルなパートナーシップと実現できたことは、とてもエキサイティングです」（バーンハートさん）



2000-02年度にロータリー奨学生としてジュネーブ（スイス）の国際・開発研究大学院に留学後、国際開発の分野で数々の役職に就き、開発と環境にかかわる仕事に従事。2015年には、ニューヨークにある国連水関連機関調整委員会（UN-Water）のプログラムオフィサーとして、「安全な水とトイレを世界中に」を趣旨とするSDGsの「目標6」の作成にも携わりました。バーンハートさんが携わってきたさまざまな仕事には、ある共通点があります。それは「水」です。

ノースウェスタン大学（シカゴ近郊）で国際学の学士号を取得した後、故郷インディアナ州（米国）のヴァルパレーズ・ロータリークラブの支援を受けてジュネーブに奨学金留学。当時は、紛争解決とマイノリティ（少数派）の権利に焦点を当てて研究をするつもりでした。

1年目と2年目の間の夏休みにUN Volunteersでインターンをしたときのこと。バーンハートさんは、非政府団体や発展途上国にある市民社会グループがオンラインでボランティア援助（ウェブサイト構築、資料翻訳、助成金提案書の作成など）を申請できるプログラムに携わり、申請書の審査を担当しました。その中に、米国のナバホネイション（先住民居留地）からの申請がありました。

「その申請はすべての要件を満たしていました」とバーンハートさん。「教育へのアクセスが不足し、飲み水や衛生設備の問題を抱え、少数派グループとして不利な立場に置かれていました。しかし、“米国内にある”という理由で対象外とされたのです」。結局、このグループの申請は却下されました。

その後も、ナバホ族先住民の窮状が頭から離れず、ナバホネイションと連絡を取り続けて現地を訪問。修士論文では、この事例を基に、開発における環境的な配慮と社会経済的な配慮の乖離について論じました。

「結局、あらゆる問題は環境と結びつきます。環境は、開発にかかわるすべての問題を支えています。それを機に私の考え方が変わり、以来、私が就いた職はすべて、環境と何らかの関係があります」

アムネスティ・インターナショナルで短期間働き、UN Volunteersでコンサルタントをした後、ドイツのボンにある地球環境変化の人的側面国際研究計画（International Human Dimensions Programme on Global Environmental Change）に、プログラムオフィサー兼渉外部責任者として

就職しました。2009年からは国連水関連機関調整委員会のボン事務局で働き、後にニューヨークの事務局に転勤して、そこで水と衛生に関するSDGsの目標の作成に携わりました。

SDGsの目標作成という仕事の重要性は言うまでもありませんが、「SDGsの目標を実現する」という現場サイドにかかわりたいと強く感じるようになりました。2016年、ケニアに移住し、UNEPの淡水生態系部で働き始めました。そして2018年、パートナーシップの機会を模索していた国際ロータリーの代表団（当時のバリー・ラシン会長エレクトを含む）が、UNEPを訪れました。当時、国際ロータリーは既に「環境」をロータリーの重点分野とすることを検討していました。

バーンハートさんはこう振り返ります。「UNEP側では、私ともう一人、元ロータリー平和フェローでもあるコミュニケーションズ部長ダン・クーニーが、この件を担当しました。二人とも既にロータリーとかかわりがあり、ロータリーとの協力がどのようなものか知っていました」



話し合いを重ねた後、UNEPの上司たちは、パートナーシップ契約を結ぶ前にデータを集めたいと考えました。このため、バーンハートさんは、UNEPの当時のロータリー代表だったジョー・オティン氏と共に「Adopt a River for Sustainable Development」と呼ばれる試験的プロジェクトを立ち上げ、第9212地区（エリトリア、エチオピア、ケニア、南スーダン）で実施しました。20クラブのロータリー会員と協力して9つの川を「adopt」（里子にする＝支援する）し、ゴミの

収集、汚染情報の収集、住民参加イベントを実施。また、ソリューションについて現地関係者と協議し、「市民科学（シチズン・サイエンス）」と呼ばれる調査手法を用いて、それぞれの川について長期計画を作成しました。



今思えば、ロータリー会員と協力したいという思いは、奨学金留学中に生まれたものだと、バーンハートさんは感じています。「留学中、多くのクラブのロータリアンに出会いましたが、まるで自分の故郷のロータリアンと話しているかのようでした。いつも、ロータリアンの熱意に心を動かされました。世界中にロータリアンがいて、皆が地域社会のためによいことをしたいと考えているんです」

ロータリーとUNEPのパートナーシップの可能性に大きな期待を抱いているバーンハートさん。「私たちのあらゆる営みにおいて、水はとても貴重な存在です。淡水を使わない日は一日としてありません。生きるための飲み水だけでなく、食物の栽培、工業、エネルギー生産など、水はあらゆるプロセスに必要不可欠です」

本稿は『Rotary』2024年9月号に掲載された記事を翻訳・編集したものです。